いの流水俳壇

「当季雑詠」

特選

雷雲のひとかたまりの行方かな

刈谷 志津選

東谷 晴男
 (評) 雷雲とは雷の原因となる雲で、積乱雲と言われ雨を伴う。積乱雲はむくむくと膨れ上がり、雲の上面は巨大なカリフラワー、または高い塔の形をしている。その他「雲の峰」「入道雲」「夕立雲」「峰雲」などとも呼ばれている。今年7月7日、日本列島を襲った集中豪雨。特に広島、岡山、愛媛の3県では未曾有の災害に見舞われ、人力では防ぎようのない自然災害、水のパワーの脅威を見せつけた。近年地球の温暖化等により、大気の状態、雨、風、雷などの諸現象が変化している。「雷雲の行方」を見守る作者の心中が、ひしひしと伝わってくる。

坪庭に夢の階もじざり草

植田 紀子

(評) 文字摺草は振花。文字花とも言う。花は真つ直ぐな茎を立てて、上部に螺旋状にねじれた穂を出し、淡紅色の花を開く。また、白緑色の種類もある。丈はほぼ30センチ位。近づき見ていると、実によく捻じれ、まるで花のらせん階段。「夢の階」により、私の脳裏にある空想が浮かぶ。「この階段を上るのはきつと、おとぎ話に出てくる王女様かも」と想像をすると何とも楽しい。庭に芽生えた花のらせん階段は、おとぎの国への夢の懸け橋。その独特な花形は、読者をすてきな夢の世界へ引き込んでゆく。これはひとえに作者のすばらしい表現力にほかならない。

旧友と電話で交歓初夏の雨

石原 静

(評) 旧友は昔からの古い友達。なんでも心置きなく話せる友。誰にも一人二人の親友はいる。「電話で交歓」の電話と言えば、昭和・平成と日進月歩で躍進を続け、今では片時も手放せない日常生活の必需品となった。少し外出の不自由な作者は、今日も電話でいつもの友と、楽しく話をする至福の時間。外は「初夏の雨」初夏は夏の初めで、真夏の暑さとは違い、むしろ心地良い感じのする雨。長年俳句に親しんできた私は、初夏の句は数多く見てきたが、この「初夏の雨」との出合いは初めてで、いかにも新鮮。その感動の一瞬が忘

れがたいものとなった。

入選

真夏日や翁雨傘差して過ぐ
 塩抜き楊梅我慢我慢かな
 星ひとつ出でてよりの風立葵
 草刈るや土手の傾を音進む
 夏の宵ギター爪弾く白き指
 行きずりの足止めて見る濃陽花
 全山のみどりに響く童歌
 前頭葉薄れるばかり梅雨籠

二句抄

不順なる梅雨の晴雨や暮らし浴う
 書き溜めし過去を処分の梅雨最中
 石段の通路の動き三拍子
 隣組七夕飾り平和かな
 夏に入る仁淀川原は真平
 梅雨末期地球温暖洗礼か
 浜木綿や海のおいの線路ゆく
 めりはりの風のありけり麻のれん
 くちなしの香が引き止める宮の坂
 果てし無い草にまかれて梅雨半ば
 滴りて千億の夜洞の中
 月下美人勇者の丘に愴む夜
 かき氷虫歯にしかと沁みもして
 半夏至より大降りの大惨事
 ラッキョウを二時間切って酔にけり
 雲分けて一時浮ぶ梅雨の月
 空真青山ふところに湧く清水
 弟の計報聞く夜のホトトギス
 花合歓や寝顔を覗くベビーカー
 足取りの清しナースの白い靴

次題「当季雑詠」

締切/毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町1700-1 8933-1922

今月のごとも川柳

夏が来た ついにきたきた 海開き

伊野小 5年 谷脇 悠真
 「評」待ちに待った大好きな夏がやって来た。そんな気持ちがついにきたきた」のことはの中に表現されています。きつと楽しい夏休みになることでしょう。

ソーラン節 かつこよくきめ 完べきだ

伊野小 6年 森木 悠人
 「評」秋の運動会でおどる「ソーラン節」の練習でしようか。かつこよくきめたあなたの顔が見えるようです。わたしも十年ほど前に見た時の感動がよみがえってきました。

水あそび シャワーで空に 虹かかる

川内小 6年 金子 夕夏
 暑い日は アイスクリームで 一休み
 川内小 6年 千田 未海

夏休み 宿題苦しい 死んじやうよ

伊野小 4年 横田 翼
 夏休み 思い出づくり ワクワクだ
 伊野小 4年 澤田 絆奈

夏祭り みんなのえがお いっぱいだ

伊野小 5年 池 蒼輝
 ふりりんはぐるぐる回り いい音だ
 伊野南小 4年 田中 優真

雨がふる どしゃさいがいが あぶないな

伊野南小 4年 野々村有翔
 かき氷 一口食べたら 歯がキーン
 枝川小 5年 曾我部侑生

「ごとも川柳」は町内全小学校の児童のみなさんを対象に募集しています。次回提出締め切りは9月12日(水)です。たくさんみなさんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会のみなさんをお願いしています。